

# 日本薬物動態学会

## 第 25 回評議員会・総会資料



評議員会／日時:平成 22 年 10 月 8 日(金) 12:00～13:20 場所:パレスホテル大宮 ローズルーム  
総 会／日時:平成 22 年 10 月 8 日(金) 15:05～16:15 場所:大宮ソニックシティ 大ホール

お願い:

評議員の皆様のご意見を学会活動方針、学会の将来ビジョン等に反映させるための一環として、2008 年度から「委員会所属評議員制度」がスタートしました。評議員の皆様にも、この点をご理解いただくために、本年度も評議員会を総会と別に開催することになりました。しかし、報告、審議内容は異なるものの、評議員会資料は基本的に総会資料と同一ですので、印刷経費の関係から、配布資料は合本とさせていただきます。



## 日本薬物動態学会 第 25 回評議員会・総会議事次第

司会：林 正弘年会長

(太字: 総会での議事次第)

	報告、審議事項	資料頁
1.	<b>開会の辞</b> (林 正弘年会長) <b>議事録署名人(2名)選出</b> *	/
2.	<b>会長挨拶</b> (乾 賢一会長) *	/
3.	<b>審議事項</b>	/
1)	<b>平成 21 年度決算・監査について</b> (馬場隆彦財務委員長、吉村義信監事) *	1
2)	<b>平成 23 年度予算案について</b> (馬場隆彦財務委員長) *	4
3)	新評議員の選出について(高野幹久総務委員長)	5
4)	第 28 回年会長、第 27 回ワークショップ代表世話人について (乾 賢一会長) *	5
5)	その他	/
4.	<b>報告事項</b>	/
1)	<b>活動報告および活動計画(平成 21～23 年度)</b> (乾 賢一会長)	6
2)	<b>平成 22 年度学会賞等選考結果および募集要項変更について</b> (横井 毅選考委員長)	11
3)	<b>細則の改定について</b> (高野幹久総務委員長)	13
4)	<b>新評議員、新名誉会員について</b> (高野幹久総務委員長)	5,14
5)	<b>JSSX フェローについて</b> (山田英之選考委員長)	14
6)	<b>DMPK 三賞の選考結果報告</b> (玉井郁巳編集委員長)	15
7)	<b>DMPK 早期公開について</b> (今井輝子 DMPK 活性化委員長)	18
8)	<b>ニュースメール配信について</b> (須藤賢一事務局長)	19
9)	<b>第 28 回年会長、第 27 回ワークショップ代表世話人について</b> (乾 賢一会長)	5,19
10)	各種委員会報告 (乾 賢一会長) *	/
①	DMPK 編集委員会 (玉井郁巳委員長)	21
②	DMPK 活性化委員会(今井輝子委員長)	22
③	国際対応委員会 (山崎浩史委員長)	24
④	学会活動活性化委員会 (齋藤秀之委員長)	25
⑤	ビジョン委員会 (鈴木洋史委員長/代理 寺田智祐副委員長)	26
⑥	フォーラム委員会 (山田英之委員長)	27
⑦	NL 編集委員会 (湯浅博昭委員長)	29
⑧	財務委員会 (馬場隆彦委員長)	30
⑨	総務委員会 (高野幹久委員長)	32
5.	<b>第 25 回 WS および第 5 回 SC について</b> (寺村俊夫第 25 回 WS 代表世話人) #	33
6.	<b>第 26 回年会について</b> (太田 茂第 26 回年会長) #	35
7.	<b>平成 22 年度学会賞各賞、DMPK 三賞、JSSX フェロー称号、ベストポスター賞の授与式</b> (乾 賢一会長)	/
8.	<b>閉会の辞</b> (林 正弘年会長) *	/

<注意>

- 1) 評議員会では各委員会活動を中心に報告させていただき関係から、\*印のみ議題として審議および報告させていただきます。
- 2) # : 懇親会時に報告



# 1. 審議事項

## 1). 平成 21 年度決算・監査について（馬場隆彦財務委員長、吉村義信監事）

### 平成 21 年度 収支計算書（一般会計）

（平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 12 月 31 日まで）

勘定科目	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額(A)	平成21年度 決算額(B)	差異 (A)-(B)	備考
<b>(収入の部)</b>					
<b>会費収入</b>	<b>20,946,000</b>	<b>21,620,000</b>	<b>20,595,000</b>	<b>1,025,000</b>	
正会員会費	13,144,000	13,000,000	13,024,000	-24,000	正会員 1628名
学生会員会費	1,132,000	1,800,000	1,296,000	504,000	学生会員 324名
賛助会員会費	6,250,000	6,400,000	5,900,000	500,000	61社 118口
購読会員会費	420,000	420,000	375,000	45,000	25機関
<b>事業収入</b>	<b>9,814,597</b>	<b>11,000,000</b>	<b>9,536,864</b>	<b>1,463,136</b>	
論文投稿料	1,916,000	2,500,000	2,211,000	289,000	DMPK Vol.24No.1～No.6
別刷料	274,907	500,000	275,570	224,430	DMPK Vol.24No.1～No.6
バックナンバー売上	569,802	700,000	430,296	269,704	海外販売31件他
広告掲載料	6,829,200	7,000,000	6,227,200	772,800	DMPK, パナー広告
雑収入	224,688	300,000	392,798	-92,798	学著協複写使用料等
<b>その他補助金等収入</b>	<b>4,402,206</b>	<b>0</b>	<b>4,700,288</b>	<b>-4,700,288</b>	科学研究費補助金, 第24回年会補助金戻入
<b>利息</b>	<b>21,621</b>	<b>15,000</b>	<b>8,435</b>	<b>6,565</b>	
小計	35,184,424	32,635,000	34,840,587	-2,205,587	
前期繰越金	8,511,093	3,511,093	8,254,069	-4,742,976	
合計	43,695,517	36,146,093	43,094,656	-6,948,563	
<b>(支出の部)</b>					
<b>事務局経費</b>	<b>706,939</b>	<b>900,000</b>	<b>663,831</b>	<b>236,169</b>	
通信費	530,330	650,000	476,089	173,911	宅急便等、郵便代
振込手数料	51,060	50,000	70,689	-20,689	
事務消耗品費	125,549	200,000	117,053	82,947	事務用品等
<b>印刷費</b>	<b>221,111</b>	<b>500,000</b>	<b>345,969</b>	<b>154,031</b>	会議資料等
<b>人件費</b>	<b>1,840,000</b>	<b>1,840,000</b>	<b>1,805,000</b>	<b>35,000</b>	
編集局人件費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	IMICへの編集業務委託費
事務局人件費	840,000	840,000	805,000	35,000	事務局長人件費
<b>事務委託費</b>	<b>4,998,326</b>	<b>5,100,000</b>	<b>5,177,246</b>	<b>-77,246</b>	IMICへの業務委託費
<b>出版経費</b>	<b>14,762,484</b>	<b>15,650,000</b>	<b>14,927,799</b>	<b>722,201</b>	DMPK編集経費
編集費	3,455,760	3,400,000	3,997,745	-597,745	DMPK Vol.24No.1～No.6英文校正費
印刷費	9,237,393	10,000,000	8,930,735	1,069,265	DMPK Vol.24No.1～No.6直接出版費
通信費	1,600,926	1,800,000	1,672,769	127,231	DMPK Vol.24No.1～No.6雑誌発送経費
雑費	468,405	450,000	326,550	123,450	電子投稿システム年間利用料
<b>会議費</b>	<b>3,374,319</b>	<b>3,200,000</b>	<b>4,047,594</b>	<b>-847,594</b>	理事会・各種委員会
<b>学会賞等経費</b>	<b>1,757,271</b>	<b>1,500,000</b>	<b>1,572,389</b>	<b>-72,389</b>	学会賞各賞、DMPK三賞、受賞者紹介冊子作成費等
<b>年会開催補助金</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>	第24回年会用
<b>ワークショップ開催補助金</b>	<b>300,000</b>	<b>300,000</b>	<b>300,000</b>	<b>0</b>	第23回ワークショップ
<b>公認会計士監査費用</b>	<b>315,000</b>	<b>315,000</b>	<b>315,000</b>	<b>0</b>	平成21年度決算監査費用
<b>慶弔費</b>	<b>14,481</b>	<b>100,000</b>	<b>78,708</b>	<b>21,292</b>	香典・弔電代
<b>ホームページ関係費</b>	<b>719,260</b>	<b>500,000</b>	<b>462,710</b>	<b>37,290</b>	学会HP保守、サーバーレンタル料、掲載料
<b>学術著作権協会会費分担金</b>	<b>9,000</b>	<b>9,000</b>	<b>9,000</b>	<b>0</b>	学術著作権協会会費分担金
<b>雑費</b>	<b>323,257</b>	<b>300,000</b>	<b>813,230</b>	<b>-513,230</b>	会員DB保守料、第17回年会要旨集電子化費用等
<b>基金繰入支出</b>	<b>5,000,000</b>	<b>0</b>	<b>5,000,000</b>	<b>-5,000,000</b>	別途積立金へ繰入
<b>予備費</b>	<b>100,000</b>	<b>500,000</b>	<b>0</b>	<b>500,000</b>	
小計	35,441,448	31,714,000	36,518,476	-4,804,476	
当期収支差額	-257,024	921,000	-1,677,889	2,598,889	
次期繰越金	8,254,069	4,432,093	6,576,180	-2,144,087	
合計	43,695,517	36,146,093	43,094,656	-6,948,563	

平成 22 年 3 月 8 日

上記監査の結果、正確であることを認めます。

監事 諏訪 俊男 印

監事 吉村 義信 印

(印鑑省略)

**貸借対照表**  
(平成21年12月31日現在)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金	32,985	未払費用	7,481,154
普通預金(三井住友/麴町)	1,326,285	前受会費	9,974,000
普通預金(みずほ/本郷)	12,613,065	前受金	26,171
郵便振替	5,409,191	仮受金	8,000
未収入金	3,476,489		
仮払金	207,490		
前払費用	1,000,000	次期繰越金	6,576,180
		(前期繰越金)	8,254,069
		(当期収支差額)	-1,677,889
合 計	24,065,505	合 計	24,065,505

**財産目録**  
(平成21年12月31日現在)

<b>資産の部</b>		
<b>現金</b>	事務局小口現金	<b>32,985</b>
<b>普通預金</b>	三井住友銀行 麴町支店	<b>1,326,285</b>
<b>普通預金</b>	みずほ銀行 本郷支店	<b>12,613,065</b>
<b>郵便振替</b>	東京貯金事務センター	<b>5,409,191</b>
<b>未収入金</b>		<b>3,476,489</b>
	投稿料 Vol.24 No.6 他	418,000
	別刷料 Vol.24 No.6	27,200
	広告掲載料 Vol.24 No.5,6	1,714,400
	雑収入 許諾料	1,889
	定期購読料	15,000
	第24回年会補助金繰入	1,000,000
	第24回会議費	300,000
<b>仮払金</b>	WS2010経費分	<b>207,490</b>
<b>前払費用</b>	第25回年会補助金	<b>1,000,000</b>
<b>資産合計</b>		<b>24,065,505</b>
<b>負債の部</b>		
<b>未払費用</b>		<b>7,481,154</b>
	出版経費(編集)Vol.24 No.6	642,265
	出版経費(印刷)Vol.24 No.6	1,486,055
	出版経費(通信費)Vol.24 No.6	286,951
	事務局経費(通信費)	17,093
	事務局経費(事務消耗品費)	36,750
	WS2010経費	3,040
	薬学会学著協分担金	9,000
	別途積立金繰入	5,000,000
<b>前受会費</b>	平成22年度会費	<b>9,974,000</b>
<b>前受金</b>	平成22年度定期購読料	<b>26,171</b>
<b>仮受金</b>	過払分年会費	<b>8,000</b>
<b>負債合計</b>		<b>17,489,325</b>

## 平成 21 年度 収支計算書 (基金会計)

(平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 12 月 31 日まで)

勘 定 科 目	平成21年度 予算額(A)	平成21年度 決算額(B)	差 異 (A)-(B)	備 考
(収入の部)				
その他収入	0	5,000,000	-5,000,000	一般会計より繰入れ
事業収入	0	14,655	-14,655	ビジョンシンボ余剰分
受取利息	0	15,594	-15,594	利息
当期収入合計	0	5,030,249	-5,030,249	
前期繰越金	34,850,888	34,850,888	0	
合 計	34,850,888	39,881,137	-5,030,249	
(支出の部)				
雑費	0	735	-735	残高証明発行手数料
当期支出合計	0	735	-735	
次期繰越金	34,850,888	39,880,402	-5,029,514	
合 計	34,850,888	39,881,137	-5,030,249	

平成 22 年 3 月 8 日

上記監査の結果、正確であることを認めます。

監 事                    諏訪 俊男                    印  
 監 事                    吉村 義信                    印

(印鑑省略)

## 貸 借 対 照 表 (基金会計)

(平成21年12月31日現在)

借 方		貸 方	
科 目	金額	科 目	金額
DMPK基金(三菱東京UFJ)	4,000,000	次期繰越金	39,880,402
DMPK基金(郵便定額預金)	8,000,000	(前期繰越金)	34,850,888
国際化対応基金(三井住友)	5,943,713	(当期収支差額)	5,029,514
若手育成基金(三菱東京UFJ)	6,914,240		
薬物動態試験基金(三菱UFJ信託)	5,017,132		
別途積立金(みずほ)	5,005,317		
未収入金	5,000,000		
合 計	39,880,402	合 計	39,880,402

## 財 産 目 録 (基金会計)

(平成21年12月31日現在)

資産の部		
DMPK基金	三菱東京UFJ銀行 春日町支店 定期預金	4,000,000
DMPK基金	定額郵便貯金 四谷支店	8,000,000
国際化対応基金	三井住友銀行 麹町支店 普通預金	5,943,713
若手育成基金	三菱東京UFJ銀行 春日町支店 普通預金	6,914,240
薬物動態試験基金	三菱UFJ信託銀行 上野支店 普通預金	5,017,132
別途積立金	みずほ銀行 本郷支店 普通預金	5,005,317
未収入金		5,000,000
資産合計		39,880,402
負債の部		
該当なし		
負債合計		0

2). 平成 23 年度予算案について (馬場隆彦財務委員長)

平成 23 年度 収支予算案 (一般会計)

(平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで)

勘定科目	平成21年度 決算額	平成22年度 予算額	平成23年度 予算額	備 考
(収入の部)				
会費収入	20,595,000	22,375,000	22,710,000	
正会員会費	13,024,000	14,400,000	15,040,000	1880名
学生会員会費	1,296,000	1,800,000	1,760,000	440名
賛助会員会費	5,900,000	5,800,000	5,550,000	111口
購読会員会費	375,000	375,000	360,000	1社減 24社
事業収入	9,536,864	10,120,000	10,250,000	
論文掲載料	2,211,000	2,000,000	2,200,000	平成21年度決算に準拠,論文投稿料から科目名変更
別刷料	275,570	300,000	300,000	平成21年度決算に準拠
バックナンバー売上	430,296	600,000	450,000	平成21年度決算に準拠
広告掲載料	6,227,200	7,000,000	7,000,000	
雑収入	392,798	220,000	300,000	学術著作権機構、英文許諾抄録料等
その他補助金収入	4,700,288	0	0	
利息	8,435	20,000	10,000	平成21年度決算に準拠
小 計	34,840,587	32,515,000	32,970,000	
前期繰越金	8,254,069	8,132,093	11,643,093	平成22年度予算繰越金に平成22年度科研費給付額(350万)を加算
合 計	43,094,656	40,647,093	44,613,093	
(支出の部)				
事務局経費	663,831	900,000	900,000	
通信費	476,089	650,000	650,000	
振込手数料	70,689	50,000	50,000	
事務消耗品費	117,053	200,000	200,000	
印刷費	345,969	300,000	300,000	
事務局人件費	805,000	2,010,000	2,400,000	
事務委託費	5,177,246	5,100,000	5,100,000	契約額
出版経費	15,927,799	16,070,000	16,070,000	
編集費	3,997,745	3,400,000	4,000,000	英文校正等(約¥570,000×4回 ¥755,000×2回,),早期公開費用(¥3,500×60報)
印刷費	8,930,735	9,600,000	9,000,000	雑誌印刷費用(約¥1,500,000×6回)
通信費	1,672,769	1,620,000	1,620,000	雑誌発送費用(¥270,000×6回)
編集業務委託費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	人件費から出版経費に移動
電子投稿システム利用料	326,550	450,000	450,000	雑費から科目名変更
会議費	4,047,594	3,500,000	3,460,000	理事会、委員会、会議交通費等
学会賞等経費	1,572,389	1,500,000	1,500,000	
年会開催補助金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
ワークショップ開催補助金	300,000	300,000	0	H23より廃止
慶弔費	78,708	100,000	100,000	
ホームページ関係費	462,710	500,000	900,000	メールマガジン配信経費(¥400,000)含む
学術著作権協会会費分担金	9,000	9,000	9,000	
公認会計士監査費用	315,000	315,000	315,000	
法人化準備金	0	300,000	300,000	
雑費	813,230	300,000	300,000	
予備費	0	300,000	300,000	president's fund(¥200,000)含む
基金繰入支出	5,000,000	0	0	
小 計	36,518,476	32,504,000	32,954,000	
今期収支差額	<b>-1,677,889</b>	<b>11,000</b>	<b>16,000</b>	
次期繰越金	6,576,180	8,143,093	11,659,093	
合 計	43,094,656	40,647,093	44,613,093	

### 3). 新評議員、新名誉会員の選出について（高野幹久総務委員長）

#### 3)-① 新評議員の選出について(評議員会承認事項)

評議員会選出および資格に関する規定(細則3)に従い、推薦のあった下記 9 名について、総務委員会で推薦資料に基づき予備審査を実施した結果、すべて評議員として相応しいとして理事会に答申し、8月17日開催の第90回理事会で全員評議員会に推挙することが承認された。

新評議員候補者名(敬称略、五十音順)

	氏名	所属	部署	会員歴	推薦者
1	石橋 徹	塩野義製薬株式会社	医薬開発本部臨床開発部 臨床薬理部門	10年	馬場 隆彦
2	伊藤 晃成	東京大学医学部附属病院	薬剤部	11年	鈴木 洋史
3	鶴藤 雅裕	株式会社新日本科学	薬物代謝分析センター	12年	山崎 浩史
4	宇野 司	琉球大学医学部附属病院	薬剤部	18年	安仁屋洋子
5	岸本 航	日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社		12年	船江 良彦
6	佐久間 勉	富山大学大学院	医学薬学研究部	14年	根本 信雄
7	杉原 数美	広島国際大学	薬学部	16年	太田 茂
8	三宅 正晃	大塚製薬株式会社		8年	湯浅 博昭
9	山口 嘉隆	塩野義製薬株式会社	創薬・開発研究所 薬物動態研究部門	16年	馬場 隆彦

#### 3)-② 新名誉会員候補者について

大村恒雄氏(九州大学)、藤井義明氏(東北大学)の2名が推薦された。総務委員会で予備審査し、2名とも名誉会員に相応しいとして、8月17日開催の第90回理事会に推挙し、承認された。

### 4). 第28回年会長、第27回ワークショップ世話人代表について（乾 賢一会長）

第28回年会長、第27回ワークショップ世話人代表候補者として、理事会より下記の方々 が推挙された。

- ◆第28回(平成25年)年会長:泉 高司氏(第一三共株式会社)
- ◆第27回(平成25年)ワークショップ代表世話人:久米俊行氏(田辺三菱株式会社)

### 5). その他

## II. 報告事項

### 1). 平成 21 年度活動報告、平成 22 年度活動中間報告、平成 23 年度活動計画（乾 賢一会長）

#### 【平成 21 年度活動報告】

#### A. 庶務報告

##### 1. 会員の動向

##### (1) 会員数(平成 21 年 12 月 31 日)

正会員	1,669 名
学生会員	257 名
名誉会員	16 名

---

合計会員数 1,942 名

賛助会員	64 社
購読会員	24 社

##### (2) 名誉会員の推薦

新名誉会員 3 名

##### (3) 評議員推薦

新評議員 18 名

総評議員数(平成 21 年 12 月 31 日) 218 名

##### 2. 会議の開催

##### (1) 理事会

第 81 回:平成 21 年 1 月 23 日(金)、第 82 回:平成 21 年 5 月 15 日(金)、  
第 83 回:平成 21 年 8 月 4 日(火)、第 84 回:平成 21 年 9 月 15 日(火)、  
第 85 回:平成 21 年 10 月 27 日(火)、第 86 回:平成 21 年 11 月 26 日(木)、  
第 87 回:平成 21 年 12 月 14 日(月)

##### (2) 評議員会・総会

平成 21 年 11 月 28 日(土)

##### (3) 監事会および公認会計士による外部監査

平成 21 年 3 月 25 日(平成 20 年度財務諸表について監事による内部監査を実施)

平成 21 年 4 月 3 日、7 日(平成 20 年度会計について公認会計士による外部監査を実施)

##### 3. 各種委員会

平成 21 年度委員会は以下の通りである。それぞれの委員会は必要に応じて開催し、それぞれの課題

について討議・検討の上、理事会に提案・具申し承認事項を随時実行に移す。

- (1) 総務委員会(委員長:高野幹久)
- (2) 財務委員会(委員長:大野泰雄)
- (3) 編集委員会(委員長:千葉 寛)
  - a) DMPK 編集委員会(委員長:千葉 寛)
  - b) DMPK 活性化委員会(委員長:今井輝子)
- (4) 国際対応委員会(委員長:玉井郁巳)
- (5) 広報委員会(委員長:成松鎮雄)
- (6) 学会活動活性化委員会(委員長:山下伸二)
- (7) ビジョン委員会(委員長:鈴木洋史)
- (8) 出版物に関する委員会(委員長:山崎浩史)
- (9) フォーラム委員会(委員長:山田英之)
- (10) ワークショップを考える会(委員長:須藤賢一)
- (11) ショートコース委員会(委員長:馬場隆彦)
- (12) 資格制度を考える会(委員長:北田光一)
- (13) 薬物動態試験推進委員会(委員長:鈴木洋史)
- (14) 学会賞選考委員会(委員長:林 正弘)
- (15) 顕彰制度委員会(委員長:寺崎哲也)
- (16) 理事ノミネーション委員会(委員長:乾 賢一)

## B. 活動報告

### 1. 会誌「Drug Metabolism and Pharmacokinetics」、ニュースレターの発行

- Vol.24 No.1(平成 21 年 2 月 25 日) 126P  
Vol.24 No.2(平成 21 年 4 月 25 日) 72P  
Vol.24 No.3(平成 21 年 6 月 25 日) 86P  
Vol.24 No.4(平成 21 年 8 月 25 日) 124P  
Vol.24 No.5(平成 21 年 10 月 25 日) 80P  
Vol.24 No.6(平成 21 年 12 月 25 日) 86P

## C. 講演会等の開催

### 1. 第 3 回日本薬物動態学会ショートコース

平成 21 年 4 月 23 日(木) 慶応義塾大学薬学部  
実行委員長:永山績夫

### 2. 第 23 回日本薬物動態学会ワークショップ

平成 21 年 4 月 23 日(木)~24 日(金) 慶応義塾大学薬学部・記念講堂  
代表世話人:馬場隆彦

3. 日本薬物動態学会第24回年会 市民公開講演会  
平成21年11月26日(木) メルパルク京都  
実行委員長:乾 賢一
4. 第24回日本薬物動態学会年会  
平成21年11月27日(金)～11月29日(日) 京都国際会館  
年会長:乾 賢一

#### D. 他学会への協賛等

1. NEDO「マイクロトース臨床試験を活用した革新的創薬技術の開発」プロジェクト・キックオフシンポジウム(協賛)  
平成21年1月21日・東京
2. 第6回 Intensive Course(協賛)  
平成21年1月24日・東京
3. ファーマコゲノミクス・シンポジウム(協賛)  
平成21年3月17日～18日・東京
4. 第7回 Intensive Course(協賛)  
平成21年5月30日・東京
5. 第36回 分子薬物動態学教室ミニシンポジウム(協賛)  
平成21年9月17日・東京
6. アジア薬科学会議2009(協賛)  
平成21年10月15日～18日・熊本
7. 第3回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム(後援)  
平成21年11月14日～15日・福岡

#### E. 賞の授与(各賞、五十音順、敬称略)

1. 日本薬物動態学会学会賞  
・横井 毅(金沢大学医薬保健研究域薬学系)  
研究題目「薬物代謝酵素の解毒および活性化機能とその変動因子の解析研究」
2. 日本薬物動態学会北川賞  
・内藤真策((株)大塚製薬工場研究開発センター基礎評価研究部)  
研究題目「培養細胞系を用いた in vitro 薬物動態研究」
3. 日本薬物動態学会奨励賞  
・斎藤嘉朗(国立医薬品食品衛生研究所 機能生化学部)  
研究題目「臨床応用のためのファーマコゲノミクス情報の集積とその適用に関する研究」  
・前田和哉(東京大学大学院薬学系研究科)  
研究題目「医薬品の肝胆系輸送を支配するトランスポーターの寄与率の解明および遺伝子多型・薬物間相互作用による体内動態の変動の定量的予測」

・吉成浩一(東北大学大学院薬学研究科薬物動態学分野)

研究題目「薬物代謝酵素の発現調節における薬物応答性転写因子の役割に関する研究」

## F. その他

特になし

### **【平成 22年度活動中間報告】**

#### A. 会議

##### 1. 評議員会・総会

評議員会、総会は年会の期間中(10月8日)に開催し、平成21、22年度活動報告、収支決算、平成23年度活動計画及び平成21年度収支予算、その他の学会の運営上必要な議案を審議の上議決する。

##### 2. 理事会

理事会は年5回(3月、6月、8月、10月年会時、12月)開催あるいは開催予定。

##### 3. 各種委員会

平成22年度に組織されている委員会は以下の通りである。それぞれの委員会は必要に応じて開催し、それぞれの課題について討議・検討の上、理事会に提案・具申し承認事項を随時実行に移す。活動成果については、委員会報告を参照。

- (1) 総務委員会(委員長:高野幹久)
- (2) 財務委員会(委員長:馬場隆彦)
- (3) DMPK 編集委員会(委員長:玉井郁巳)
- (4) DMPK 活性化委員会(委員長:今井輝子)
- (5) 国際対応委員会(委員長:山崎浩史)
- (6) 学会活動活性化委員会(委員長:齋藤秀之)
- (7) ビジョン委員会(委員長:鈴木洋史)
- (8) フォーラム委員会(委員長:山田英之)
- (9) DMPK NL 編集委員会(委員長:湯浅博昭)

#### B. 活動中間報告

##### 1. 会誌「Drug Metabolism and Pharmacokinetics」、ニュースレターの発行

Vol.25 No.1(平成22年 2月25日) 119P

Vol.25 No.2(平成22年 4月25日) 99P

Vol.25 No.3(平成22年 6月25日) 97P

Vol.25 No.4(平成22年 8月25日) 89P

Vol.25 No.5(平成 22 年 10 月 25 日) 発行予定

Vol.25 No.6(平成 22 年 12 月 25 日) 発行予定

### C. 集会、講演会等の開催の中間報告

#### 1. 集会

次の集会を開催または開催予定であり、各計画を実施するに当たっては各集会を担当する委員会において具体的計画を立案する。

##### (1) 第 4 回日本薬物動態学会ショートコース

平成 22 年 4 月 22 日(木) 慶応大学薬学部・記念講堂

実行委員長:寺村俊夫

##### (2) 第 23 回日本薬物動態学会ワークショップ

平成 22 年 4 月 22 日(木)～23 日(金) 慶応大学薬学部・記念講堂

代表世話人:永山績夫

##### (3) 日本薬物動態学会第 25 回年会 市民公開講演会

平成 22 年 10 月 6 日(水) パレスホテル大宮

実行委員長:林 正弘

##### (4) 第 25 回日本薬物動態学会年会

平成 22 年 10 月 7 日(木)～10 月 9 日(土) 大宮ソニックシティ

年会長:林 正弘

#### 2. 表彰および奨励

(1) 日本薬物動態学会学会賞各賞(学会賞、北川賞、奨励賞、功労賞)の表彰

(2) DMPK 三賞(ベストダウンロード論文賞、ベストサイテーション論文賞、編集委員が選ぶ最優秀論文賞)の表彰

(3) 新名誉会員(国内/海外)の表彰

(4) JSSX フェロー(国内/海外)の推挙

(5) ベストポスター賞の表彰

### D. その他

1. 本学会の目的に対して必要と認められる活動を行う。それらの実施に関してはその都度、理事会又は評議員会で立案、計画して実施する。

#### **【平成 23 年度活動計画】**

会議および活動内容は例年通り実施するものとする。

## 2). 平成 22 年度学会賞等選考結果および募集要項変更について (横井 毅選考委員長)

### 2)-① 選考結果報告

日本薬物動態学会細則並びに学会賞等選考規定に基づいて、平成 22 年 7 月 1 日に選考委員会を開催し、厳正かつ総合的に審査した結果、平成 22 年度学会賞(1 件)、北川賞(1 件)、功労賞(1 件)、奨励賞(3 件)のそれぞれ受賞候補者を下記のように選定し理事会に上申、理事会で承認され、平成 22 年度学会賞各賞の受賞者が下記の通り決定した。

#### 【学会賞受賞者】

◆橋田 充(京都大学大学院薬学研究科)

受賞対象題目「薬物体内動態の精密制御法の開発とその機能評価に関する研究」

#### 【北川賞受賞者】

◆川合良成(Novartis Institute for Biomedical Research)

受賞対象題目「医薬品開発における薬物速度論モデルの確立と活用」

#### 【功労賞受賞者】

◆大塚峯三(日本薬物動態学会 前事務局長)

受賞対象題目「学会の円滑な運営に資する事務体制の確立」

#### 【奨励賞受賞者】

◆宇野泰広(株式会社新日本科学薬物代謝分析センター)

受賞対象題目「創薬に活かされるカニクイザル薬物代謝酵素遺伝子の同定・解析研究」

◆寺田智祐(滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部)

受賞対象題目「薬物トランスポータの発現・ゲノム解析とその臨床応用に関する研究」

◆平塚真弘(東北大学大学院薬学研究科)

受賞対象題目「薬物代謝酵素遺伝子の SNP スクリーニングとバリエーション酵素の機能変化解析に関する研究」

(敬称略、各賞 50 音順)

## 2)-② 学会賞等募集要項変更について

今年度の選考委員より学会賞応募要項(学会賞・奨励賞の一覧表と補足項目)の変更の提案があり、第90回理事会で以下のように修正することが承認された。

(変更箇所は「1. 学会賞、奨励賞」と「6. 補足事項」の下線部の追加)

### 1. 学会賞、奨励賞

番号	評価項目	提出書類	備考
1		推薦書(学会所定用紙)	
2	<u>研究内容および本学会への貢献、奨励賞においては将来の期待度を含む</u>	推薦理由書(A4,形式自由)	・学会賞:4000字 ・奨励賞:2000字
3	研究業績	代表的な報文5報以内の別刷	・コピー可 ・当該研究に直接関係のあるもの
		研究業績目録	・各論文のインパクトファクター、被引用件数を付記 ・別刷添付の5報に○ *1
4	本学会への貢献	学会発表(シンポジウム・口頭・ポスター)、WS発表、学会誌投稿	<u>・奨励賞においては、過去5年間に必ず本学会の年会あるいは本学会の学術雑誌で発表をしていること</u>
5	特許		*2
6	招待講演 (国内、国外)		・国内、国外に分けて記載
7	研究費獲得状況		・学会賞:代表、分担 ・奨励賞:代表のみ

### 6. 補足事項

- (1) 奨励賞にあつては、3年毎に企業所属研究者のみを対象とした受賞枠を設け、当該年度は受賞を4件以内とします(細則、奨励賞選考規定参照)。
- (2) 平成20年度より、学会賞の受賞者数が「原則として1件」となりました。
- (3) 推薦理由書は必ず推薦者が責任を持って記載してください。不明の点については、問い合わせをする場合があります。
- (4) 推薦理由書の文字数の制限は必ず守ってください。

### 3). 細則の改定について (高野幹久総務委員長)

#### 3)-① 正会員および学生会員の休会および海外在住届に関する細則(2010.3.17 改定)

<改定前>

第1条 「海外留学」「海外勤務等」「長期病気療養」「出産・育児休暇」の場合、2年間に限り休会を認める。  
別途定める「休会届」を提出し、総務委員会で審議し、承認する。

↓

<改定後>

第1条 「海外留学」「海外勤務等」「長期病気療養」「出産・育児休暇」の場合、2年間に限り休会を認める。  
申請者は事前に別途定める「休会届」を提出し、総務委員会で審議し、承認する。

#### 3)-② 奨励賞選考規程(細則)(2010.8.17 改定)

<改定前>

第3条 受賞者は継続して3年以上の会員歴を有し、第1条に定める事項について卓抜な功績を挙げ、将来の活躍が期待される研究者とする。但し、研究業績の主要な部分が日本国内で行われたものに限る。なお、会員歴は会員として登録された日より起算、公募締め切り日までとする。

第4条 受賞は1年1回、3件以内とする。但し、3年毎に企業所属研究者のみを対象とした受賞枠を設け、当該年度は受賞を4件以内とする。

↓

<改定後>

第3条 受賞者は継続して3年以上の会員歴を有し、第1条に定める事項について卓抜な功績を挙げ、将来の活躍が期待される研究者であり、応募年の4月1日現在満46歳未満の者とする。~~但し、研究業績の主要な部分が日本国内で行われたものに限る。~~なお、会員歴は会員として登録された日より起算、公募締め切り日までとする。

第4条 受賞は1年1回、3件以内とする。但し、3年毎に企業所属研究者のみを対象とした受賞枠を設け、当該年度は受賞を4件以内とする。なお、毎年 of 公募において企業からの申請を制限するものではない。

#### 3)-③ 奨励賞選考内規(細則)(2010.8.17 改定)

<現行>

第2条 受賞候補者は応募年の4月1日現在満46歳未満のものとする。

第3条 企業からの研究者を顕彰するため、3年に1回は企業からの研究者を対象を限定した受賞1件を別途設け、企業からの受賞者が選出されるよう配慮する。なお、毎年 of 公募において企業からの申請は自由とする。

第4条 過去5年間に、本学会の年会あるいは本学会の学術雑誌で必ず発表していることを応募条件とする。

第5条 選考委員会(以下委員会という)は、理事会で選出された委員5名以上を持って組織する。

第6条 選考委員長は理事会で指名する。

第7条 選考委員長は委員会の議長となり、議事の進行に当たると共に、選考結果を会長に報告する。選考により該当者がいない場合にもその旨を報告する。

↓

<改訂案>

~~第2条 受賞候補者は応募年の4月1日現在満46歳未満のものとする。~~

~~第3条 企業からの研究者を顕彰するため、3年に1回は企業からの研究者を対象を限定した受賞1件を別途設け、企業からの受賞者が選出されるよう配慮する。なお、毎年の公募において企業からの申請は自由とする。~~

第2条 過去5年間に、本学会の年会あるいは本学会の学術雑誌で必ず発表していることを応募条件とする。

第3条 選考委員会（以下委員会という）は、理事会で選出された委員5名以上を持って組織する。

第4条 選考委員長は理事会で指名する。

第5条 選考委員長は委員会の議長となり、議事の進行に当たると共に、選考結果を会長に報告する。選考により該当者がいない場合にもその旨を報告する。

#### 4). 新評議員、新名誉会員について（高野幹久総務委員長）

口頭にて報告。（資料5ページをご参照ください）

#### 5). JSSXフェローについて（山田英之選考委員長）

候補者について提出書類に基づき選考委員会で審査を実施。その結果を理事会で審議し、下記の9名にJSSX Fellowの称号を授与することを決定した。

平成22年度フェロー授与者（敬称略）

	氏名	所属
1	岩崎 一秀	株式会社新日本科学
2	鈴木 洋史	東京大学医学部附属病院薬剤部
3	玉井 郁巳	金沢大学医薬保健研究域 薬学系
4	寺崎 哲也	東北大学大学院薬学研究科
5	馬場 隆彦	塩野義製薬株式会社マーケティング部
6	山下 伸二	摂南大学薬学部薬剤学研究室
7	山添 康	東北大学大学院薬学研究科
8	Shiew-Mei Huang	Office of Clinical Pharmacology, Center for Drug Evaluation Research, Food and Drug Administration
9	Thomas A, Baillie	University of Washington, School of Pharmacy

## 6). DMPK 三賞の選考結果報告 (玉井郁巳編集委員長)

### 1. 編集委員が選ぶ最優秀論文賞

#### (DMPK Editors' Award for the Most Excellent Article in 2009)

##### 【1st Place】

著者, 所属: Ryoichi FUJIWARA<sup>1)</sup>, Miki NAKAJIMA<sup>1)</sup>, Tetsunori YAMAMOTO<sup>2)</sup>, Hidemi NAGAO<sup>2)</sup> and Tsuyoshi YOKOI<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup>Drug Metabolism and Toxicology, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kanazawa University,<sup>2)</sup>School of Mathematics and Physics, College of Science and Engineering, Kanazawa University)

論文題目: In silico and in vitro Approaches to Elucidate the Thermal Stability of Human UDP-glucuronosyltransferase (UGT) 1A9. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 24(3), 235-244 (2009)

##### 【2nd Place】

著者, 所属: Yusuke TANIGAWARA<sup>1)</sup>, Kazutaka YOSHIHARA<sup>2)</sup>, Kizuku KURAMOTO<sup>3)</sup> and Kikuo ARAKAWA<sup>4)</sup>

(<sup>1)</sup>Department of Pharmacy, School of Medicine, Keio University,<sup>2)</sup> Translational Medicine & Clinical Pharmacology Department, Daiichi Sankyo Company, Ltd.,<sup>3)</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital,<sup>4)</sup> Fukuoka University)

論文題目: Comparative Pharmacodynamics of Olmesartan and Azelnidipine in Patients with Hypertension: a Population Pharmacokinetic/Pharmacodynamic Analysis. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 24(4), 376-388 (2009)

##### 【3rd Place】

著者, 所属: Nobuo SEKIGUCHI<sup>1)</sup>, Atsuko HIGASHIDA<sup>2)</sup>, Motohiro KATO<sup>1)</sup>, Yoshiaki NABUCHI<sup>1)</sup>, Tetsuya MITSUI<sup>1)</sup>, Kenji TAKANASHI<sup>1)</sup>, Yoshinori ASO<sup>1)</sup> and Masaki ISHIGAI<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> Pre-Clinical Research Department, Chugai Pharmaceutical Co.,Ltd.,<sup>2)</sup> Discovery Platform Technology Department, Chugai Pharmaceutical Co.,Ltd.)

論文題目: Prediction of Drug-Drug Interactions based on Time-Dependent Inhibition from High Throughput Screening of Cytochrome P450 3A4 Inhibition. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 24(6), 500-510 (2009)

### 2. ベストダウンロード論文賞

#### (DMPK Award for the Most Frequently Downloaded Article in 2008)

#### 1) Review Article

##### 【1st Place】

著者, 所属: Kazuya MAEDA and Yuichi SUGIYAMA

(Department of Molecular Pharmacokinetics, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo)

論文題目: Impact of Genetic Polymorphisms of Transporters on the Pharmacokinetic, Pharmacodynamic and Toxicological Properties of Anionic Drugs. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 23(4), 223-235 (2008)

##### 【2nd Place】

著者, 所属: Yun-Ping LIM and Jin-ding HUANG

(Department of Pharmacology, Medical College, National Cheng Kung University)

論文題目: Interplay of Pregnane X receptor with Other Nuclear Receptors on Gene Regulation. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 23(1), 14-21 (2008)

【3rd Place】

著者, 所属: Yoshihiro KONNO, Masahiko NEGISHI and Susumu KODAMA

(The Pharmacogenetics Section, Laboratory of Reproductive and Developmental Toxicology, National Institute of Environmental Health Sciences, National Institutes of Health)

論文題目: The Roles of Nuclear Receptors CAR and PXR in Hepatic Energy Metabolism. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 23(1), 8-13(2008)

## 2) Original Article

【1st Place】

著者, 所属: Masuhiro NISHIMURA and Shinsaku NAITO

(Division of Pharmacology, Drug Safety and Metabolism, Otsuka Pharmaceutical Factory, Inc.)

論文題目: Tissue-specific mRNA Expression Profiles of Human Solute Carrier Transporter Superfamilies. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 23(1), 22-44(2008)

【2nd Place】

著者, 所属: Katsunobu HAGIHARA<sup>1)</sup>, Yumi NISHIYA<sup>1)</sup>, Atsushi KURIHARA<sup>1)</sup>, Miho KAZUI<sup>1)</sup>, Nagy A. FARID<sup>2)</sup> and Toshihiko IKEDA<sup>3)</sup>

(<sup>1)</sup> Drug Metabolism & Pharmacokinetics Research Laboratories, Daiichi Sankyo Co., Ltd.,<sup>2)</sup> Department of Drug Disposition, Lilly Research Labs, Eli Lilly and Company,<sup>3)</sup> Yokohama College of Pharmacy)

論文題目: Comparison of Human Cytochrome P450 Inhibition by the Thienopyridines Prasugrel, Clopidogrel, and Ticlopidine. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 23(6), 412-420(2008)

【3rd Place】

著者, 所属: Kayoko MAEZAWA<sup>1)</sup>, Kenji MIYAZATO<sup>1)</sup>, Tamihide MATSUNAGA<sup>1)</sup>, Yasuyuki MOMOSE<sup>1)</sup>, Tetsuya IMAMURA<sup>2)</sup>, Kohei JOHKURA<sup>2)</sup>, Katsunori SASAKI<sup>2)</sup> and Shigeru OHMORI<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> Department of Pharmacy, Shinshu University Hospital,<sup>2)</sup> Department of Anatomy and Organ Technology, Shinshu University School of Medicine)

論文題目: Expression of Cytochrome P450 and Transcription Factors during In Vitro Differentiation of Mouse Embryonic Stem Cells into Hepatocytes. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 23(3), 188-195(2008)

## 3. ベストサイテーション論文賞

(DMPK Award for the Most Frequently Cited Article in 2006)

### 1) Review Article

【1st Place】

著者, 所属: Tsutomu SHIMADA

(Department of Chemical Biology, Osaka City University Medical School)

論文題目: Xenobiotic-Metabolizing Enzymes Involved in Activation and Detoxification of Carcinogenic Polycyclic Aromatic Hydrocarbons. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 21(4), 257-276(2006)

【2nd Place】

著者, 所属 Toshiyuki MATSUNAGA, Shinichi SHINTANI and Akira HARA

(Laboratory of Biochemistry, Gifu Pharmaceutical University)

論文題目: Multiplicity of Mammalian Reductases for Xenobiotic Carbonyl Compounds. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 21(1), 1-8(2006)

【3rd Place】

著者, 所属: Teruko IMAI

(Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University)

論文題目: Human Carboxylesterase Isozymes: Catalytic Properties and Rational Drug Design. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 21(3), 173-185(2006)

## 2) Original Article

【1st Place】

著者, 所属: Masuhiro NISHIMURA and Shinsaku NAITO

(Division of Pharmacology, Drug Safety and Metabolism, Otsuka Pharmaceutical Factory, Inc.)

論文題目: Tissue-Specific mRNA Expression Profiles of Human Phase I Metabolizing Enzymes Except for Cytochrome P450 and Phase II Metabolizing Enzymes. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 21(5), 357-374(2006)

【2nd Place】

著者, 所属: Chiho KOMOTO<sup>1)</sup>, Tsutomu NAKAMURA<sup>1)</sup>, Toshiyuki SAKAEDA<sup>1)2)</sup>, Deanna L. KROETZ<sup>3)4)</sup>, Toshio YAMADA<sup>2)</sup>, Hideaki OMATSU<sup>1)</sup>, Tatsuya KOYAMA<sup>2)</sup>, Noboru OKAMURA<sup>5)</sup>, Ikuya MIKI<sup>6)</sup>, Takao TAMURA<sup>6)</sup>, Nobuo AOYAMA<sup>7)</sup>, Masato KASUGA<sup>6)</sup> and Katsuhiko OKUMURA<sup>1)2)5)</sup>

(<sup>1)</sup>Department of Hospital Pharmacy, Kobe University,<sup>2)</sup>Division of Clinical Pharmacokinetics, Department of General Therapeutics, Kobe University Graduate School of Medicine,<sup>3)</sup> Department of Biopharmaceutical Science, University of California San Francisco,<sup>4)</sup> Program in Human Genetics, University of California San Francisco,<sup>5)</sup> Department of Clinical Evaluation of Pharmacotherapy, Graduate School of Medicine, Kobe University,<sup>6)</sup> Division of Diabetes, Digestive and Kidney Diseases, Department of Clinical Molecular Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine,<sup>7)</sup> Endoscopy, School of Medicine, Kobe University)

論文題目: MDR1 Haplotype Frequencies in Japanese and Caucasian, and in Japanese Patients with Colorectal Cancer and Esophageal Cancer. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 21(2), 126-132(2006)

【3rd Place】

著者, 所属: Masuhiro NISHIMURA<sup>1)</sup>, Akiko KOEDA<sup>2)</sup>, Emako SUZUKI<sup>2)</sup>, Yuichi KAWANO<sup>1)</sup>, Mitsuo NAKAYAMA<sup>1)</sup>, Tetsuo SATOH<sup>2)3)</sup>, Shizuo NARIMATSU<sup>4)</sup> and Shinsaku NAITO<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> Department of Drug Metabolism, Division of Pharmacology, Drug Safety and Metabolism, Otsuka Pharmaceutical Factory, Inc.,<sup>2)</sup> Ina Research Inc.,<sup>3)</sup> Non-Profit Organization Human & Animal Bridging Research Organization,<sup>4)</sup> Laboratory of Health Chemistry, Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University)

論文題目: Regulation of mRNA Expression of MDR1, MRP1, MRP2 and MRP3 by Prototypical Microsomal Enzyme Inducers in Primary Cultures of Human and Rat Hepatocytes. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 21(4), 297-307(2006)

## 7). DMPK 早期公開について (今井輝子 DMPK 活性化委員長)

### ○DMPK 活性化委員会 早期公開 WG

(今井輝子委員長、斎藤嘉朗副委員長、伊藤清美委員、丹羽俊朗委員)

目的： DMPK 誌に採択された論文を早期公開することにより、採択から雑誌刊行まで数ヶ月かかっていた公開を前倒しして早期に公表すると共に、DMPK 誌のインパクトファクター (IF) を向上させる。

経緯： 2008 年に、IF 取得対応 WG (小澤委員長) の発展的改組により、所属委員が DMPK 活性化委員会に合流。千葉寛前 DMPK 編集委員長の意向を受け、早期公開活動を開始。

現状： 早期公開開始予定のアナウンスを、ニュースレターおよび学会ホームページ (日本語、英語) にて行った。2010 年 9 月より、DMPK 誌採択論文 (PDF ファイル) の早期公開を、J-STAGE (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/dmpk/-char/ja/>) 上で開始。

#### <要点>

- 1) 早期公開された論文情報は PubMed 上にも掲載され、PubMed 画面には J-STAGE 上の早期公開論文ページへのリンクが張られる。
- 2) 早期公開に関し、J-STAGE における手数料は無料。しかし、書誌情報の作成、早期公開論文のセキュリティー付与およびアップロードに関し、1 論文につき 3,500 円の追加料金を、小宮山印刷工業に支払う。
- 3) 著者からの最終原稿ファイルの受理後、2 週間程度で早期公開。

#### <早期公開に伴う主な改定ポイント>

- 1) DMPK 編集委員会の担当 Editor から著者への採択通知 (メール) に、最終原稿の PDF ファイルを DMPK 編集局 ([dmpk-ed@imic.or.jp](mailto:dmpk-ed@imic.or.jp)) 宛、送付するよう記載が追加された。著者は変更履歴を承認 (または全て黒字にするなど) した最終原稿をそのまま PDF 化し、編集局宛に送付。
- 2) 著作権移管承諾書 (Copyright transfer) を、論文の初回投稿時に原稿と同時に Manuscript Central 上にアップロードまたは編集局宛 FAX するよう、投稿規定及び Manuscript Central 上の表記が変更された。なお、Manuscript Central 上にアップロードする場合は、Cover letter をアップロードする箇所において、著作権移管承諾書をアップロードいただく。
- 3) 学会ホームページ中の DMPK ページに、Advanced publication (早期公開) のアイコンを追加し、J-STAGE の早期公開画面に移動しうるようにした。

以上、DMPK 早期公開の経緯および現状につき、関係各位を代表して報告致します。

## 8). ニュースメール配信について (須藤賢一事務局長)

1. ニュースメールの概要 : 以下を主な内容とする毎月 1 回の定期配信

- 1) TOPICS(新着情報)
- 2) INFORMATION(年会、関連学会等の案内)
- 3) DMPK、NL の発刊案内(隔月)

2. 配信開始までのスケジュール

- 1) 第 25 回年会でアナウンス
- 2) 平成 22 年内に会員への通知(年会費納付案内と合わせて配信確認作業)
- 3) 平成 23 年初から開始

3. その他

会員サービスとしての差別化のため、ホームページの PDF 版 NL へのアクセス制限を導入(最新の 1 年分を会員専用とし、1 年より前のバックナンバーを一般公開)。

<事務局より>

10 月中旬に会員の皆様に発送する 2011 年度年会費請求書には次のページ(P20)に記載のある確認票を同封します。これは、会員の皆様の登録情報の整備とニュースメール配信の希望を確認するための重要な書類です。会員の皆様におかれましては、必ずご記入の上、事務局までご返信ください。

## 9). 第 28 回年会長、第 27 回ワークショップ世話人代表について (乾 賢一会長)

口頭にて報告。(資料5ページをご参照ください)

# 日本薬物動態学会ニューズメール配信登録確認票

薬物 太郎 様 (会員No.000555)

日本薬物動態学会では2011年よりニューズメール配信サービスを開始いたします。  
 つきましては、ニューズメール配信の可否および現在の登録情報内容のご確認をお願いいたします。  
 登録内容を変更される方、ニューズメールの配信を希望しない方は、この用紙にご記入の上**11月30日(火)**までに  
**FAX (03-5361-7091)** またはメール添付 ([jssx@imic.or.jp](mailto:jssx@imic.or.jp)) にて事務局までご返信ください。  
 なお、ご返信のない場合は配信可と判断させていただきます。以上、よろしくお願い申し上げます。

◆ ニューズメール配信について (どちらかに○をつけてください)  
 【 可 ・ 不可 】

【現在の登録内容】

郵便物の送付先		勤務先	
所 属 先	所在地	〒 160-0016	
	東京都新宿信濃町 35 信濃町煉瓦館 (財) 国際医学情報センター内		
	日本薬物動態学会		
	TEL 03-5361-7370 FAX 03-5361-7091		
	e-mail address jssx@imic.or.jp		
現 住 所	所在地	〒 165-0027	
	中野区野方 6-6-6		
	TEL 03-3338-8889 FAX		
	e-mail address jssxjssx@hotmail.com		



変更のある箇所のみご記入ください (変更箇所に☑を入れてください) 送信日: 年 月 日

<input type="checkbox"/>	郵便物の送付先			(所属先 or 現住所)
<input type="checkbox"/>	所在地	〒		
	TEL		FAX	
	e-mail address			
<input type="checkbox"/>	所在地	〒		
	TEL		FAX	
	e-mail address			

備考欄	
-----	--

## 10). 各種委員会報告

### ①編集委員会

委員長:玉井郁巳

副委員長:小澤正吾

委員:泉 高司、加藤将夫、川合良成、出口芳春、橋本征也、細川正清、山田英之、

Suk-Jae Chung, Jing-ding Huang

所属評議員:伊藤清美、奥田真弘、仮家公夫、北村繁幸、小林カオル、田川公造、千葉 寛、  
千葉雅人、寺崎哲也、寺田智祐、寺村俊夫、頭金正博、戸塚善三郎、中山一誠、  
檜垣和孝、松本宜明、宮田昌明、宮本謙一、森脇俊哉、安原真人、山下幸和、  
山田静雄、吉田武美、吉田雄三、吉成浩一、渡辺和人

#### 1. 活動目標

2010年1月から新編集委員会体制でのDMPKの編集がスタートした。特に、国際化を念頭に、外国人編集委員2名を加えた体制とし、より幅広い著者・読者を対象とする雑誌への発展を目指す。

#### 2. 活動内容

- 1) 投稿数について;2010年の投稿数は9月6日現在で93論文であり、昨年と同じ時期(57論文)と比較すると63%増。(年間投稿論文数変遷:2006年39報;2007年74報;2008年78報;2009年98報)。
- 2) 海外からの投稿について;全投稿数に占める海外からの投稿数は昨年の約33%を上回り62%(8月末時点)に達している(2006年18%、2007年16%、2008年35%、2009年34%)。海外からの実数は増加しているが、逆に国内からの投稿数は実質的に減少しているため、編集委員による投稿呼びかけを行った。
- 3) 審査について;最近1年間の審査期間の平均は、投稿から最初のdecisionまで25.3日(昨年29日)、最終のdecisionまで49.8日(昨年52日)と昨年より若干短縮された。また、2010年新規投稿論文のreject率は44%(国内11%、国外59%)となっている。国外からの投稿に対するreject率は高く、国内からについては採択率は過去に比べ高くなっている。(過去の全論文についてのreject率(2006年20%、2007年11%、2008年26%、2009年33%)。)
- 4) IFの取得;2010年度のDMPKのimpact factorは2.544となった。
- 5) テーマ号について;2010年よりテーマ号の刊行は年1回となり、すでに本年2月に1号がテーマ号として発行された。2011年も1号をテーマ号として刊行する予定で進行中。
- 6) DMPK三賞について;2010年DMPK三賞の受賞論文を選定し、理事会の承認を得て決定された。また、来年度以降のDMPK三賞の選考方法(外国人編集委員の三賞選考への参加やサイテーション論文賞のあり方など)および表彰方法などについて検討するため編集委員会内でワーキンググループを立ち上げた。
- 7) 文部省科学研究費について;平成21年度に続き平成22年度科学研究費の申請も採択された。

#### 3. 今後の活動予定

国外研究者や臨床研究分野などより広い地域と研究分野からの投稿や読者を増やすと共に、国際的認知度を高めることによって、国内研究者からの利用度が高まるような学術誌を目指す。

## ②DMPK活性化委員会

委員長:今井輝子

副委員長:斎藤嘉朗

委員:伊藤清美、荻原琢男、加藤将夫、中島美紀、丹羽俊朗、渡辺和人

所属評議員:麻生良典、石黒直樹、小田切優樹、桂 敏也、楠原洋之、小室勢津子、崔 吉道、

寺崎哲也、永田 清、二宮真一、橋本征也、埴岡伸光、藤田卓也、細谷健一、堀江利治、

水間 俊、山田静雄、湯川 栄二

### 1. 活動内容

#### 1)DMPK 採択論文の早期公開

WG:今井輝子委員長、斎藤嘉朗副委員長、伊藤清美委員、丹羽俊朗委員

DMPK 誌に採択された論文を早期公開することにより、採択から雑誌刊行まで数ヶ月かかっていた公開を前倒して早期に公表すると共に、DMPK 誌のインパクトファクター(IF)を向上させる目的として、2009年より活動を開始。

2010年8月31日に編集委員会と連名で、早期公開開始予定のアナウンスを、ニュースレターおよび学会ホームページ(日本語、英語)にて行った。さらに9月7日より、DMPK誌採択論文(PDFファイル)の早期公開を、J-STAGE(<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/dmpk/-char/ja/>)上で開始した。

#### 要点

- 1) 早期公開された論文情報は PubMed 上にも掲載され、PubMed 画面には J-STAGE 上の早期公開論文ページへのリンクが張られる(9月7日公開分に関し、確認済み)。
- 2) 早期公開に関し、J-STAGE における手数料は無料。しかし、書誌情報の作成、早期公開論文のセキュリティ付与およびアップロードに関し、1論文につき3,500円の追加料金を、小宮山印刷工業に支払う。
- 3) 著者からの最終原稿ファイルの受理後、2週間程度で早期公開予定。

#### 早期公開に伴う主な改定点

- 1) DMPK編集委員会の担当Editorから著者への採択通知(メール)に、最終原稿のPDFファイルをDMPK編集局(dmpk-ed@imic.or.jp)宛、送付するよう記載が追加された。著者は変更履歴を承認(または全て黒字にするなど)した最終原稿をそのままPDF化し、編集局宛に送付。(本文・図・表を1つのファイルに作成する。)
- 2) 著作権移管承諾書(Copyright transfer)を、論文の初回投稿時に原稿と同時に Manuscript Central 上にアップロードまたは編集局宛 FAX するよう、投稿規定及び Manuscript Central 上の表記が変更される。なお、Manuscript Central 上にアップロードする場合は、Cover letter をアップロードする箇所において、著作権移管承諾書をアップロードいただく。
- 3) 学会ホームページ中の DMPK ページに、Advanced publication(早期公開)のアイコンを追加し、J-STAGE の早期公開画面に移動するようにした。

2) 2011年テーマ号(1号)の立案・編集(渡辺和人委員)

“Current topics in drug metabolism and drug toxicity”というタイトルで5報の総説で構成

3) Editorial Advisory Board (EAB) 構成メンバーの見直し

WG: 加藤将夫委員、中島美紀委員、荻原琢男委員

現 EAB メンバーは 2007 年に選出されて以降、見直しがされてないことから、編集委員と連携して、メンバーの見直しを進めている。

4) DMPK 投稿論文の英文校正について

WG: 伊藤清美委員、斎藤嘉朗副委員長、今井輝子委員長

現在、全ての論文について、印刷のための版組後に、英文校正を行っている。しかしながら、不適当な英文の変更が行われるという苦情があることから、英文校正の必要性について、Reviewer に判断していただくことにした。そのために、審査依頼状およびMCシステム上で Reviewer に英文校正の必要性を記述していただく。

### ③国際対応委員会

委員長:山崎浩史

副委員長:玉井郁巳

委員:大槻純男、小澤正吾、川合良成、千葉康司、千葉雅人

所属評議員:朝日 知、池田敏彦、石田竜弘、岩崎一秀、岩本喜久生、宇野和夫、太田 茂、神村秀隆、北河修治、倉田知光、小池正博、後藤幹保、小西良士、高倉喜信、田川吉彦、谷川原祐介、徳井太郎、中島恵美、中山一誠、西村有希、橋田 充、樋坂章博、布施英一、堀江利治、三輪哲生、蒔田泰誠、矢吹昌司、山下幸和

#### 1. ミッション

- 1) 国際化による non-Japanese の JSSX 会員増
- 2) JSSX 年会の英語化の推進
- 3) JSSX 年会の国際化による学会全体のレベルアップの推進
- 4) 2010 年および 2011 年年会時の JSSX 国際化シンポジウムの企画
- 5) 2011 年 APISSX(台湾、4 月 22-25 日)との連携
- 6) JSSX 会員の ISSX 役員や award 等への適切なノミネーション
- 7) non-Japanese 研究者の JSSX fellow への推薦

#### 2. 活動報告

##### 1) JSSX 年会時 JSSX 国際化シンポジウム企画

2010 Drug Metabolism Research in Asia: Orphan P450 enzymes, Natural Products, and Human Metabolite Formations (Hiroshi Yamazaki and Yune-Fang Ueng).

(参考)

2009 Translational Science: evolving vector in DMPK research (Ryosei Kawai and Edmund Lee)

[http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jssxmeeting/24/0/\\_contents/5/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jssxmeeting/24/0/_contents/5/-char/ja/)

2008 Pharmacogenomics in Asia - the present & the future; how to translate genomic informations into clinical therapeutics and drug development (Ichiro Ieiri and Jin-Ding Huang)

[http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jssxmeeting/23/0/\\_contents/6/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jssxmeeting/23/0/_contents/6/-char/ja/)

2006 The relevance of transporters to the efficacy and toxicity of drugs (Chang-Koo Shim and Ikumi Tamai)

[http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jssxmeeting/21/0/\\_contents/3](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jssxmeeting/21/0/_contents/3)

##### 2) JSSX 海外フェロー推薦

##### 3) ISSX 理事選挙への対応

#### 3. 今後の予定:

- 1) 上記ミッション4に記した来年度の年会時シンポジウムの企画

#### ④学会活動活性化委員会

委員長:齋藤秀之

副委員長:山下伸二

委員:五十嵐隆、桂 敏也、楠原洋之、崔 吉道、櫻井栄一、佐々木均、設楽悦久、島倉 仁、藤田卓也、布施英一、山田一磨呂

所属評議員:井関 健、岩本喜久生、岡崎 治、荻原琢男、加藤基浩、金尾義治、鎌滝哲也、神村秀隆、河津剛一、北田光一、木村聰城郎、木村敏行、際田弘志、久米俊行、黒崎勇二、小池正博、河野喜郎、小西良士、杉田 修、関口金雄、高田寛治、高橋幸一、竹田秀一、谷川原祐介、辻 彰、寺村俊夫、富田幹雄、直良浩司、永井純也、永山績夫、成松鎮雄、西垣隆一郎、二宮真一、丹羽俊朗、野口隆志、林 正弘、樋口 駿、樋坂章博、藤田健一、堀江 透、増田智先、松崎 豊、泉二奈緒美、森本一洋、森脇俊哉、矢野育子、山本 昌

##### 1. 委員会活動の目的

本委員会は“魅力ある学会づくり”を目指し、主に創薬領域を中心とした学会活動を展開しつつ、年会での創薬シンポジウム開催等の事業に取り組んできた。これまでの活動経緯を踏まえ、創薬領域並びに育薬・臨床領域における薬物動態研究の事業活動を企画・立案し、本会の活性化を図ることを主な目的とする。すなわち、創薬・開発研究並びに個別投与設計等の育薬研究における薬物動態理論・実践の重要性を一層明確化し、企業・行政関連研究者や薬剤師等に対して本学会活動の積極的アピールを図ることにより、「From Bench(基礎研究)to Bedside(臨床研究・育薬)」をコンセプトとした幅広い会員支持層の基盤確保とバランスのとれた活性化を目指したい。この目的を達成するため、各事業領域毎のWorking Group(WG)を立ち上げ、領域間での相互連携や情報・意見交換等を踏まえつつ、各事業活動の企画立案・調整等を図り推進する。

##### 2. 委員会活動報告および今後の活動予定

###### 1)第25回年会における創薬シンポジウムの企画・開催

担当委員:○山下伸二、楠原洋之、藤田卓也、布施英一、山田一磨呂、五十嵐隆、島倉 仁

・第2回創薬シンポジウム「薬物動態研究を機軸とした創薬機能連携」

###### 2)第25回年会におけるラウンドテーブルディスカッションの企画・開催

担当委員:○山下伸二、楠原洋之、藤田卓也、布施英一、山田一磨呂

###### 1)医薬品開発における小腸代謝評価の意義と問題点～CYP および UGT を中心に～

###### 2)Assessment of chemically reactive drug metabolites in discovery and development of new drugs

###### 3)ベストポスター賞の選考方法・規約等に関する検討

担当委員:○桂 敏也、櫻井栄一、設楽悦久、五十嵐隆 (アドバイザー、家入一郎)

・メール会議にて従来のBP賞選考方法について確認し、本賞目的の明確化、今後の選考方法並びに規約等について意見交換・協議中。

###### 4)薬学部6年制学生に対する学会参加・発表活動の啓発・対策等にかかる検討

担当委員:○設楽悦久、山下伸二、藤田卓也、櫻井栄一

・年会における薬学部6年制課程学生の発表形態、参加費等について意見交換と協議を継続中。

###### 5)企業関係者を対象としたアンケート調査の実施

担当委員:○五十嵐隆、泉 高司、寺村俊夫、須藤賢一、永山績夫、馬場隆彦、森脇俊哉

・企業所属の会員並びに非会員を対象としてアンケート調査を実施し、本会事業活動等に対する要望や意見を集約・分析し、企業会員増を視野に入れた活性化を図る。

###### 6)薬剤師等メディカルスタッフを対象とする学会啓発活動等に関する事業企画について

担当委員:○佐々木均、崔 吉道、桂 敏也、齋藤秀之

・年会開催期間中に薬剤師等メディカルスタッフを対象とする教育・研修セミナー等を企画。次期年会開催地(広島県)の病院等勤務薬剤師を対象とし、日本薬物動態学会事業や教育セミナー等に対する希望アンケート調査を実施し、薬剤師ニーズを踏まえたセミナーの企画立案を行う予定。

## ⑤ビジョン委員会

委員長:鈴木洋史

副委員長:寺田智祐

委員:伊藤隆志、岩崎一秀、小宮 泉、水間 俊、矢吹昌司、吉川剛兆、吉成浩一

所属評議員:東 純一、安仁屋洋子、有吉範高、家入一郎、伊賀勝美、石井祐次、石川智久、石黒直樹、石田竜弘、宇野和夫、大槻純男、大森 栄、檜山英二、糟谷史代、鎌滝哲也、河津剛一、齋藤嘉朗、櫻井栄一、篠原佳彦、島田美樹、杉田 修、杉山雄一、鈴木 尚、田川公造、竹田秀一、立石 満、田端 滋、千葉康司、戸塚善三郎、富澤宏樹、西垣隆一郎、沼沢光輝、藤田健一、細川正清、堀江 透、増田智先、松本宜明、丸山 徹、宮田昌明、宮本謙一、宮本 徹、三輪哲生、薙田泰誠、村上照夫、望月正隆、安原真人、安盛俊雄、山田一磨呂、吉田武美、吉村 勉、渡辺善照

### 1. 活動目的

今後の薬物動態学会の方向性について議論を行い、DMPK ニュースレター記事や、創薬ビジョンシンポジウム、年会時のシンポジウムなどを企画・提案するとともに、年会時のシンポジウムなどについても企画・提案する。

### 2. 活動報告

DMPK ニュースレター連載企画についての議論を進めている。

### 3. 活動予定

上記の議論を踏まえ、今後創薬ビジョンシンポジウムの開催、年会時のシンポジウムなどの企画・提案を進める。

## ⑥フォーラム委員会

委員長: 山田英之

副委員長: 泉 高司

委員: 五十嵐隆、池田敏彦、大野泰雄、久米俊行、内藤真策、永田 清、永山績夫、成松鎮雄、松崎 豊、松永民秀、泉二奈緒美、吉村義信、林 正弘(第25回年会長)

所属評議員: 朝日 知、安仁屋洋子、有吉範高、家入一郎、石川智久、太田 茂、小沢直記、小田切優樹、加藤基浩、北田光一、北村繁幸、木村敏行、後藤幹保、小林カオル、小林 智、小室勢津子、重松秀成、島倉 仁、島田美樹、関口金雄、高橋幸一、田川吉彦、田中栄之介、田端 滋、千葉 寛、頭金正博、徳井太郎、徳間洋二、沼沢光輝、根本信雄、羽鳥晶子、埴岡伸光、平塚 明、堀 勝行、丸山 徹、三浦慎一、宮本 徹、望月正隆、森本一洋、吉田雄三、吉原新一、吉村 勉

### 1. 委員会の活動目標・役割

本委員会は医療を巡る国際的動向を把握し、創薬に寄与できるテーマを発掘して「フォーラム」において提示すると共に、主に企業関係者にアピールできる企画を検討する。従って、「フォーラム」は企業会員が自主的に薬物動態に係る諸問題について課題を設定し、これについての情報公開と議論の場とする。また、企画・実施されたフォーラムの成果やインパクトを追跡調査し、今後のフォーラムのあり方を考える。

### 2. 活動内容

#### 1) フォーラム2010について

書面会議#1-3を通して、仮課題案の問題点修正並びに具体的構成を検討し、下記の内容を委員会最終案とした。

フォーラム2010次第(平成22年10月9日、土曜、13:40-16:40)

タンパク質薬に関する現状と将来展望: 安全性、動態試験および承認審査

The status and future perspective of protein drugs: their safety, pharmacokinetics and approval

13:40-13:45

【渡部 烈 名誉会員追悼黙祷および趣旨説明 山田 英之】

【座長 泉 高司】

13:45-14:10

1. タンパク質・ペプチド・抗体医薬品の世界・国内市場と開発状況

武田バイオ開発センター(株) 高原 栄二 先生

14:10-14:35

2. タンパク質薬のCMC審査

京都大学大学院 川上 浩司 先生

【座長 成松 鎮雄】

14:35-15:00

3. タンパク質・ペプチド・抗体医薬品の品質管理・安全性評価について

国立医薬品食品衛生研究所 川西 徹 先生

休憩 15:00-15:10

15:10-15:35

4. 抗体医薬品開発における臨床薬物動態の意義

中外製薬(株) 寺尾 公男 先生

【座長 内藤 真策】

15:35～16:00

5. タンパク質・ペプチド・抗体医薬品の動態試験－レギュレーションと実際－  
高崎健康福祉大学 荻原 琢男 先生

16:00～16:25

6. タンパク質・ペプチド抗体医薬品開発における臨床研究  
北里大学東病院 熊谷 雄治 先生

16:25～16:40

総括(山田 英之)

2)フォーラム 2011 およびそれ以降の課題

書面会議#4(6月14～28日)

企業に所属する委員および所属評議員のみを対象として、フォーラム2011 およびそれ以降の課題案について候補案募集並びに意見交換。その結果、17件の意見が寄せられ、下記の4案が候補として浮上した。

- 案1 バイオマーカーの治験および申請への活用と問題
- 案2 ファーマコゲノミクスの現状と今後の展開、並びに行政の対応
- 案3 医薬品の小児適用:投与量設定、未承認薬、適用外使用および承認審査
- 案4 核酸医薬品の現状、動態試験および承認審査

書面会議#5(7月13～30日)

書面会議#4で候補に挙げられた4案につき、全委員および全所属評議員による意見交換・募集を行った。その結果、22名から意見が寄せられ、案1(17名)および案1と2の折衷を提案する意見(4名)が多かった。これらの状況や寄せられた意見をも総合して、フォーラム 2011 の課題案は「バイオマーカーの治験および申請への活用と問題」を基本案とし、ファーマコゲノミクスはマーカーの一つとしての位置づけで包含させる計画で進める予定が有望となった。

書面会議#6(8月9日～18日)

上記予定の承認や問題点等について書面会議#6を実施した結果、賛成多数(11名、未回答1名)で基本案が承認された。

## ⑦NL編集委員会

委員長:湯浅博昭

委員:設楽悦久、松永民秀、三宅正晃

### 1. 活動目的

本会の諸活動、薬物動態学関連分野の動向等に関する情報提供を図る。会員への情報提供サービスと併せ、記録保存の役割を担う。その一環として、ニュースレター(NL)連載記事等の書籍化についても検討する。電子媒体の普及を踏まえ、迅速かつ効果的な情報提供のための連携についても検討する。

### 2. 活動報告

#### 1) NLの定期刊行と紙面の見直し

NLを隔月(偶数月末)定期刊行しつつ、紙面(企画・連載等)の見直しを行った。

(1) アドメサークルの再編: リレー形式で会員諸氏が自由に語る連載シリーズである。従来の企業研究者を中心とした連載を見直し、再編・拡充した。

1) 日本の薬物動態研究者:(1) 企業編、(2) 教育・研究・医療機関編

2) 日本の薬物動態研究組織(組織編)

(2) アドメモートの新設: 薬物動態関連の学術情報を提供する解説記事シリーズとして連載を開始した。レクチャーノートの後継を基本とし、アドメライン(論文紹介主体)的役割も含む。種々のテーマを取り上げての短期集中連載形式(数回まで)の予定で、「薬物体内動態に関わるトランスポーターと臨床的諸問題」を第1弾のテーマとして設定した。

(3) 海外留学体験記の新設: 国際化推進の一環として準備中。

(4) 従来からの継続企画: 展望、トピックス、学会参加体験記、実験方法シリーズ、アクティビティレポート等

#### 2) ニュースメール配信の準備

オンライン情報の活用促進を図り、会員への情報提供の効率化(迅速性・利便性の向上)を推進するため、定期的なニュースメールの配信を始めることとし、準備を進めた。

(1) ニュースメールの概要: i) TOPICS(新着情報)、ii) INFORMATION(年会、関連学会等の案内)、iii) DMPK、NLの発刊案内(隔月)、を主な内容とする毎月1回の定期配信。

(2) 配信開始までのスケジュール: i) 第25回年会でアナウンス、ii) 平成22年内に会員への通知(年会費納付案内と合わせて配信確認作業)、iii) 平成23年初から開始

(3) その他: 会員サービスとしての差別化のため、ホームページのPDF版NLへのアクセス制限を導入(最新の1年分を会員専用とし、1年より前のバックナンバーを一般公開)。

### 3. 活動予定

#### 1) NLの定期刊行

#### 2) ニュースメール配信の開始及び円滑な運用

#### 3) NL連載記事等の書籍化の検討

## ⑧財務委員会

委員長:馬場隆彦

委員:大野泰雄、須藤賢一

財務委員会は、学会財務・会計全般にわたる問題点や論点について、e-mail 上において意見交換した上で委員会を開催して討議した。特に、学会財務・会計の現状と近い将来における展望について中心的に議論した。

### 活動のポイント

- 1) 決算報告書案の検証、修正提言
- 2) 一般会計予算案の立案
- 3) 一般会計の月次推移の把握と方向付け
- 4) 監査への対応
- 5) ワークショップ収支、ショートコース収支など、決算と予算への提言
- 6) 会費納入の確認と徴収方法の提言
- 7) 支出抑制への提言

### 活動結果

#### 1. 平成 21 年度一般会計収支決算について

収入、支出について詳細に討議した。科研費補助金、年会からの還付金があったため、5,000,000 円を別途積立基金へ繰り入れることとし、最終的には 1,677,889 円の赤字決算になった。

#### 2. 平成 21 年度の学会財政と今後の運営について

赤字傾向への対策について；過去 5 年間の実質的な収支表（その他補助金、前年度繰越金、基金繰入を考慮しない収支表）からは、学会会計が若干の赤字傾向であることが読み取れる。今後の対策として以下のような意見が挙げられ、理事会へ提言することとした。

- 1) 広告、賛助会員の勧誘を積極的に行なう。
- 2) 年会同様、WS でも余剰が出た場合、補助金を返金するように規程に入れる。  
その場合、WS 基金についても学会基金の一つとすることを合わせて考慮する。
- 3) 会費の値上げについて検討する。（現段階では、喫緊の事項ではないが、理事会にて是非を検討することを提案する。）

#### 3. 平成 21 年度から 22 年度への送り事項について

##### 1) 基金への繰入について

一般会計より 5,000,000 円を基金会計に別途積立金として繰り入れることを提案する。

##### 2) DMPK への海外投稿者の投稿料の未払いについて

ここ数年毎回理事会で提案しているが、海外投稿者の投稿料の未払いについて、開発途上国からの投稿の場合、申請があれば投稿料を減免できる規定を作成することや投稿料を廃止し審査料とするなど再度理事会に提案する。今後海外からの投稿増加が見込まれるため、編集委員会でしっかりと検討していただき、本年度中に何かしらの対応、整備し、平成 23 年度から新

制度で対応していただくよう強く提言する。

3) 年会運営規程について

年会運営規程の覚書の中にある「余剰金の学会への返金」の項目の文言について、赤字の場合の規定がされていないため、検討が必要と理事会に提案する。

4. 平成 22 年度の活動

1) 財務委員会規則の改定

会費の請求時期ならびに回数の部分を修正・改訂した。

事務局長の引継ぎに伴ない、文言の改訂を行なった。

2) 平成 23 年度一般会計予算案について

各方面の協力を得て、会員増を基にした設計の予算案とした。

3) 出版経費削減対策について

DMPK を電子化して出版経費の削減ができるか、見積書を元に検討したが、経費自体それほど削減できないことから、経費節減を狙った DMPK の電子化の企画は当面行なわないことにした。しかし、オンラインジャーナルとしての転換は継続検討の予定。

4) 年会、ワークショップ・ショートコースの経費収入について

ここ数年安定して運営できているので、年会、ワークショップ・ショートコースでは多少の黒字を出すような運営を目指し、黒字分については一般会計に繰り入れることを理事会に提案した。また、基金が充分にあるためワークショップ補助金の廃止を提案すると共に、年会補助金は、収支決裁後、全額返金とすることを提案した（止むを得ない赤字の場合は勘案する）。

5) 年会運営のあり方について

学会財政を安定させるためには、学会の“顔”ともいえる主要事業である年会をさらに魅力的にしたいと考えた。今後も年会テーマの継続性や企業側のニーズに合った内容の検討など、理事会もしっかりと協力してゆく必要があると考えた。これらに関連して、そろそろ年会長を企業所属の方に依頼してはどうかとの意見が多く出たため、第 28 回年会長は企業所属の方にするを理事会に提案した。

6) 年会費の値上げについて

関連学会の年会費一覧を確認し、年会費値上げを検討したが、会員が納得する理由付けがまずは必要であることから、見送ることとしたが、今後も継続的に検討することとなった。

## ⑨総務委員会

委員長:高野幹久

副委員長:細谷健一

委員:奥田真弘、樫山英二、金尾義治、倉田知光、林 正弘、矢野育子、渡辺善照

所属評議員:麻生良典、石井祐次、井関 健、伊藤隆志、大森 栄、岡崎 治、糟谷史代、北河修治、

木村聰城郎、際田弘志、黒崎勇二、重松秀成、篠原佳彦、諏訪俊男、高倉喜信、

高田寛治、出口芳春、富田幹雄、直良浩司、永井純也、西村有希、野口隆志、橋田 充、

羽鳥晶子、檜垣和孝、東 豊、樋口 駿、平塚 明、藤井敏彦、堀 勝行、村上照夫、

安原 一、安盛俊雄、山本 昌、湯川栄二、吉原新一、吉村義信

### 1. 総務委員会の活動目的

総務委員会の主な役割は、学会全体の運営が適正かつスムーズに行われるように企画、方針を策定することにある。このため、例えば、学会組織運営の骨子とも言うべき会則、細則に関し、適宜、見直し、改定を行う。また、学会全体が活性化するよう、他委員会と連携の上、方針を策定する。新評議員や名誉会員候補者の予備審査も所掌事項の一つである。

### 2. 平成 22 年の活動内容

1. 第 11 期委員会メンバーおよび所属評議員について会長とも相談の上調整(今期より評議員の専門領域を照会;年会の座長選定等に活用予定)
2. 「正会員および学生会員の休会および海外在住届に関する細則」の改定(申請者は事前に休会届けを提出することを明記)
3. Fellow 候補者の調査および Nominator の調整(日本人 7 名、海外 2 名)
4. 製薬企業内での部所移動が休会理由として認められるか否か検討(「部署移動を理由とする休会は認めない」ことを理事会にて確認)
5. 新評議員候補者(9 名)、新名誉会員候補者(2 名)の予備審査の実施
6. 名誉会員の選考基準についての検討
7. 受賞者紹介冊子(Awards program)の掲載内容の確認・校正

### 3. 今後の活動予定

新評議員の推薦・選考に関し、これまでの学会貢献をどの程度勘案するかについて意見が出ているため、見直しが必要かどうか検討する。また、委員会所属評議員制度を開始して3年目になるため、現状の把握および見直しの必要性について検討する。また、学会運営に関わる事項について、他委員会とも連携をとりながら継続的に対応する。

## 5. 第25回ワークショップおよび第5回ショートコースについて(報告は懇親会にて)

### 1) 第5回ショートコースについて

実行委員長:森脇俊哉(武田薬品工業)

日程:2011年5月12日(木)、9:00~13:20

会場:東京大学・医学部教育研究棟内(14F)・鉄門講堂

首題:細胞を用いた誘導および代謝に関する企業研究の最前線(仮題)

演題名は何れも仮題

1. 誘導、代謝の基礎と最新知見(仮題) 吉成浩一(東北大)
  2. ヒト肝細胞を用いたHT-CYP3A誘導系の確立と評価 上口尚美(武田薬品)
  3. HepaRGおよびヒト凍結肝細胞を用いたCYP3A誘導系の確立とクライテリア設定 金子晃久(中外製薬)
  4. 非CYP酵素およびトランスポータの誘導と3D培養の有用性 西村益浩(大塚製薬工場)
  5. 肝細胞を用いた代謝物解析、ヒト代謝予測の実際 村井孝弘(第一三共)
  6. ラウンドテーブルディスカッション
- 終了後、セミナー室に移動し昼食

### 2) 第25回ワークショップについて

代表世話人:寺村俊夫(アステラス製薬)

日程:2011年5月12日(木)、13日(金)

会場:東京大学・医学部教育研究棟内(14F)・鉄門講堂

首題:Stop! 毒性要因による新薬開発中止

～薬物動態研究者にできることは何か?～

演題名はいずれも仮題

発表時間は何れも45分。質疑応答5分。

発表毎に10分の休憩を設ける(←企業展示場所へのアクセスの増大を図る)

#### 第一日目

14:00~17:10 最先端研究に焦点

- ・マイクロ RNA の薬物動態への関与と新規毒性評価への展望 中島美紀(金沢大)
- ・ヒト iPS 細胞を用いた新規 in vitro 毒性評価への展望 水口裕之(大阪大、医薬基盤研)
- ・メタボロミクスを用いた新規毒性評価への展望 曾我朋義(慶応大)

17:30~20:00

- ・懇親会(ワークショップ参加者は無料)

## 第二日目

9:00～12:00 毒性研究者と動態研究者の連携

- ・毒性研究者の立場から 橋爪恒夫(武田薬品工業)
- ・毒性研究者の立場から 藤本和則(第一三共)
- ・動態研究者の立場から 成富洋一(アステラス製薬)

昼休み

12:15～13:15 ランチョンセミナー

積水メディカル、新日本科学、フェニックスバイオの三社

13:25～14:25 毒性回避戦略に焦点

- ・ トランスポータ白書を考慮した戦略 岸本航(ベーリンガー・インゲルハイム)
- ・ 毒性バイオマーカーを考慮した戦略 山田弘(医薬基盤研)
- ・ 副作用とトランスポータ親和性を指標とした抗がん剤個別化治療戦略 濱田哲暢(熊本大)
- ・ 特異体質性薬物毒性の回避戦略 横井毅(金沢大)

17:25～17:30 おわりに アステラス製薬 寺村俊夫

### ●参加費:

#### 【ワークショップ】

会員 12,000 円(当日 17,000 円),非会員 20,000 円(当日 25,000 円),学生 5,000 円(当日 6,000 円)

#### 【ショートコース】

会員 18,000 円(当日 23,000 円),非会員 28,000 円(当日 33,000 円),学生 7,000 円(当日 9,000 円)

なお、ワークショップとショートコース両方に同時参加登録された方には以下の割引があります。

会員 27,000 円(当日 36,000 円),非会員 40,000 円(当日 50,000 円),学生 8,000 円(当日 10,000 円)

また、学生会員については参加費を無料にします(申し込み先着 50 名)

参加費等の詳細につきましては、学会ホームページ(<http://www.jssx.org/jpn/workshop/ws25/>)に随時掲載いたしますので、ご確認ください。なお、参加申し込みは 2011 年 1 月 20 日(木)よりホームページで受付を開始する予定です。

連絡先: 〒160-0016

東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館 財団法人 国際医学情報センター内

日本薬物動態学会第 25 回ワークショップ/第 5 回ショートコース登録事務局

TEL:03-5361-7370 FAX:03-5361-7091

E-MAIL:jssx-ws@imic.or.jp あるいは jssx@imic.or.jp

担当:西澤展美

## 6. 第26回年会について（報告は懇親会にて）

日 時： 2011年11月16日(水)-18(金)

場 所： 広島国際会議場

年 会 長： 太田 茂 (広島大学)

年 会 HP： <http://www.jssx.org/nenkai26>

テ ー マ： 創薬と医療を支える薬物動態研究の推進

～Development of PK/PD for supporting drug discovery and medical care～